

「これからの100年を見据えた事業を作りたい」－。2022年に企業コンサルタントから**マルシメ**（愛知県豊橋市）社長に就任した大熊康丈氏は、社会問題解決型へとシフトすることで企業としての生き残りを模索する。

創業以来、**マルシメ**の事業は石油とともにある。大手石油会社の代理店となり、モノづくりや水産業など地域産業界に燃料を供給。モータリゼーションとともにガソリン、石油製品へと事業展開した。だが、近年の二酸化炭素（CO₂）排出量削減の動きに伴い石油関連の需要は減少が避けられない。「その時に柱をもう一つ残すことで企業価値を維持したい」（大熊社長）。

これまでは高度経済成長、大量消費社会に支えられ事業を拡大した。今は持続的成長のため「環境対応」「少子高齢化」をキーワードに新規事業に挑む。

住宅のバリアフリーリフォームや省人化機器の販売を手がける中、特に力を注ぐのがリサイクル事業。地元業者とタイアップして植物由来の食用油を回収し、製造現場で使う潤滑油などに再利用する。現在、大手切削工具メーカーが試験導入している。「まだサンプル出荷のレベルだが、環境負荷軽減に取り組む大企業の需要を取り込めるのでは」（同）と期待を寄せる。

そして環境と少子高齢化の両方に貢献する事業が軽トラックタイプの電気自動車（EV）販売だ。事業エリアの東三河は愛知県東部の産業集積地だが、背後の山間部で過疎化が進む。「ガソリンスタンド閉鎖が相次ぐ地域ではEVが高齢者の強力な味方になる」（同）。自宅で充電できるEVは日常生活や農作業で使う旧来の軽トラックの代替需要があると睨（にら）む。

「石油を扱ってこの地域に育てられたが、これまでの延長線では将来はない」（同）。社会問題の解決企業へと脱皮を目指す大熊社長は石油がエネルギーの主役から降りる「その時」を見据える。

【企業メモ】1910年（明43）に丸〆鈴木傳治商店として油脂類の販売を開始。天竜川上流域から運び出される木材を運搬する台車の潤滑油で成功し、地元有力企業に成長。現在はガソリンスタンド、工業用燃料供給などを手がける。